

笹川保健財団の活動紹介 「日本財団在宅看護センター」起業家育成事業

看護師が社会を変える！

こんな大それたスローガンを掲げ、2014 年度から「日本財団在宅看護センター」起業家育成事業を開始しました。

看護師は、医療の場での医師との協働活動だけでなく、人々の生活の場での支援機能をも主務のひとつとする保健医療専門家の中で最大多数を占める職種です。

看護師が活動範囲を広げ、力を存分に発揮することにより、人々の生活の場での療養だけでなく、地域及びその住民の健康維持推進、さらには人々が自らの健康を考えるというプライマリ・ヘルス・ケアの理念に基づく住民の健康意識変革、ひいては適正かつ効果的な医療資源活用による持続可能な社会の実現を目指しています。

当財団はどこでも、いつでも、地域社会の人々の健康と安寧の維持向上を目指し、2014 年度より以下の活動を行っています。

■起業家看護師を育成するプログラム(2020 年度で終了)

看護師が主宰し、地域のハブ的役割を担う「在宅看護センター」（訪問看護事業所等）を起業・運営する人材育成プログラムとして 8 カ月の研修を実施。これまでに 108 人が研修を終え、全国 25 都道府県、80 を超える事業所を経営しています。



全国 25 都道府県で 80 超の「日本財団在宅看護センター」が稼働中です

■「日本財団在宅看護センター」の起業・拡充支援

在宅看護センターの起業支援の他、看護小規模多機能型居宅介護事業所（通称、看多機※）や支所の開設など、看護の力をより発揮するための拠点づくりへの支援を行っています。

※看多機とは・・・自宅での療養を主体としながら、訪問看護/介護・泊まり・通いを組み合わせ、利用者一人一人に合った柔軟なサービスが提供できる介護保険下のサービス及び事業所。

在宅看護センターとしては、全国に6事業所が稼働中です。



住み慣れたご自宅・地域で療養する方々を支えています。

■「日本財団在宅看護ネットワーク」の構築・強化

全国の起業家同士が日頃から情報共有できる場を作り、最新情報の共有・経営についての相談・議論を行うことにより経営基盤の強化に努めています。

昨年来の新型コロナ流行に伴い、事業所運営や感染対策や相談等、オンライン会議で活発な意見交換が行われています。

■ネットワークを活用した情報収集～発信

本事業の成果や、全国の在宅看護センターから運営状況や地域の情報を収集し、国内外の学会等で積極的に発信しています。

2020年度は、日本初の看護の国際フォーラムを日本看護協会と開催し、海外の看護の先達とディスカッションを行いました。



Nursing Now フォーラム・イン・ジャパンで発表